会 議 録（要点筆記）

会　　議　　名	平成30年度米原市総合教育会議
開　催　日　時	平成31年2月15日（金）　10時00分～11時49分
開　催　場　所	市民交流プラザ（ルッチプラザ）　２階研修室
出席者および欠席者	構成員 平尾道雄市長、山本太一教育長、中川清和教育長職務代理者、本庄通子教育委員、近藤由加里教育委員、膽吹照子教育委員、法戸繁利教育委員 事務局 宮川巖政策推進部次長、松村英香政策推進課課長補佐、上村浩教育部長、口分田剛教育部次長、西出始代教育総務課長、一ノ宮賢了学校教育課長、澤田真宏教育総務課課長補佐、村居雅道学校教育課課長補佐（教育センター所長）、西脇繁学校教育課主幹、田中博之こども未来部長、阿原麻木子子育て支援課長ほか担当職員１人 傍聴者 １人
議　　題	（１）　米原市コミュニティ・スクールについて （２）　小学校３年生学力補充教室「学びっ子」について （３）　チームまいばら先生（ＴＭＴ）の会について （４）　今後の総合教育会議の協議事項について
概　　要	○今年度から導入したコミュニティ・スクール制度について、モデル校３中学校での取組などの報告を受けた後、学校運営協議会委員や情報発信などについての意見が交わされた。 ○今年度から始めた事業である小学校３年生学力補充教室「学びっ子」について、今年度の総括を中心とした報告を受けた後、意見交換を行った。おおむね取組を評価する意見だったが、より良い事業としていくための留意点として、次のような意見が出た。 ・最初の意識付けが大切である。 ・学校、学びっ子、放課後児童クラブの連携強化が必要である。 ・保護者への情報提供や働き掛けは工夫していく必要がある。 ・当該事業について保護者がどのように思っているか把握するべき。 ・保護者としては、小学校４年生、５年生でも実施してほしいと思う。 ・支援を必要とする児童、家庭への丁寧な働き掛けをしてほしい。 ・教育センターと学びっ子事業の連携を図り、学校の指導にもつなげていってほしい。 ○若手教職員を中心とした勉強会であるチームまいばら先生の会についての説明を受けた後、意見交換を行った。この会を通じて先生同士の横断的なつながりが強くなることを期待する意見が出された。また、教科指導以外のことについても学び合える場が必要ではないか、ＩＣＴ機器を使いこなせる先生の養成もしっかりと進めるべきなどの意見が交わされた。 ○今後の総合教育会議の協議事項については、教職員の働き方改革、子ど

	もの貧困問題について議論していきたいとの意見が出た。教職員の残業時間を削減していくためには、具体的解決策について踏み込んだ検討が必要である旨の意見が出た。
審　議　経　過	
事務局	**1　開会** （事務局から開会挨拶）
市長	**2　市長挨拶** 皆さん、こんにちは。教育委員会の皆様におかれましては、日頃から米原市の教育課題につきまして御尽力、御協力賜っておりますことを改めて御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。 さて、今週 13 日の米原市議会第 1 回定例会議員全員協議会におきまして、平成 31 年度施政方針の概要について説明させていただきました。その中では、私たちの世代が育った時代から地域社会や家庭の様相は大きく変わってきており、地域力や家庭の力も大きく変わり始めている、今一度地域に向き合い、みんなでどのように支え合うか、みんなで未来展望を切り拓いていくまちづくりを進めるべき時期にあるのではないかということを触れさせてもらいました。これは教育現場でも同じことだろうと思います。私は人間を孤独にさせてはだめだという思いをずっと持っています。自分は一人ではない、みんなに支えられている、周りには人間の温かい思いが感じられる、そうした地域社会であるべきだと思いますし、その中でこそ、私たちは幸福感やここで暮らす喜びを感じられます。こうした風景が米原市の地域社会の風景であってほしいと述べさせてもらいました。 こうした中で、平成 31 年度の教育関係での主な取組について少しお話したいと思います。まず、学校図書館についてです。学校図書館の機能を最大限に発揮させるとともに、子どもたちの読書活動の充実を図るため、学校司書を全 11 校に配置していきたいと考えています。また、今年度から始めている小学校３年生を対象とした補充学級「学びっ子」についてもぜひ継続させていただきたいと思います。そして、コミュニティ・スクールについてです。先ほども言いましたように地域の力が大きく変わりつつある中、みんなで学校を支えていくし、学校があることで地域が変わる、あるいは地域が期待される、こうした社会を懸命に創っていきたいとの思いを持って、コミュニティ・スクールも展開して参りたいと思います。さらに、双葉中学校の長寿命化改良にも取り組んで参ります。しっかりとした学び舎としていきたいと思いますし、子どもたちがこうした公共事業に触れることを通して、税金の使い方も含め、大人が自分たちの学び舎をどうしようとしているのかということを肌で感じてもらう、ある意味教育の機会でもあると考えています。また、財源が伴いますので次々にとはいきませんが、ＩＣＴ教育の推進につきましても着実に進めていきたいと思います。地域に根ざした学びの場である公民館につきましては、コミュニティセンター化などの議論があります。ここもしっかり方針を出しながら、地域の

	中で活用されていくよう見直していきたいと考えています。そして、スポーツについてです。スポーツを通して学び合うとか、文化に触れるとか、頑張っている人たちの姿を通して勇気をもらったり、頑張ろうという思いになる。私はこのことが大事ではないかと思います。今一度スポーツを真ん中に置きながら、このことにもしっかりと努力していきたいと思います。 　こうしたことも踏まえながら、本日は、皆さんと意見交換させてもらう総合教育会議の場ということになりました。これも従来から申し上げていますように、選挙で選ばれる立場の市長と、現場を熟知し、しかも地域に暮らしながら、地域の教育力、あるいは学校の教育力の問題について高い見識をお持ちの皆様方と一緒になって、米原市の地域課題はもちろん、より良い教育環境をどう整えていくのかということについて意見交換させてもらいたいと思います。 　一点触れさせてもらいますと、連日児童虐待の問題が報道されている中、昨日国会中継を少しだけ見ることができたのですが、その中で、大人が子どもを守りきれなかったのは現場だけの話ではなく、いじめや虐待の現状について、もう一度みんなで忌憚のない意見を出し合い、新しいシステムを創っていけるよう、危機感を持って議論したいということをおっしゃっていたのが大変印象的でした。私たち大人が果たすべき未来への責任についてもこの総合教育会議の場で議論できればと思う次第です。 　限られた時間ではありますが、忌憚のない御意見を寄せ合っていただきまして、実りある議論の場にしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 **３　協議事項** **（１）米原市コミュニティ・スクールについて**
事務局	米原市コミュニティ・スクールについてということで、今年度３校のモデル校でスタートしました。来年度は 11 校に拡充して、コミュニティ・スクール推進事業という形で進めさせていただきます。2020 年度には全ての小中学校をコミュニティ・スクール化する計画をしております。 　資料に沿いまして説明させていただきます。資料１を御覧ください。本市の現状に対する課題認識についてですが、人口減少社会の到来と少子高齢化の進行により、地域コミュニティが弱体化しているのではないかという懸念があります。また、地域における教育基盤も弱まっている、学校が抱える課題が複雑化、困難化しているということもあります。こうした課題に対して、地域創生に寄与するような支援を行うことや、学校・家庭・地域がお互いに支え合うこと、社会総掛かりによる教育の実現に向けた手立てが必要だと捉えています。 　「ともに学び、ともに育つ、学びあいのまち　まいばら～自分もひとも大切にし、地域を誇る人づくり～」を基本理念として、第２次教育振興基本計画による取組を進めているわけですが、子どもも大人も学び合う育ち合う教育体制を構築していくための具体的な施策が必要であると考えてお

	ります。 　この構築につきましては、年数を掛けて、ステップを踏んで進めて参りました。資料５ページを御覧ください。 　（以下、資料に基づき、平成 20 年度以降の学校と地域の連携・協働体制の構築ステップについて説明） ・学校評議員制度（2008 年度（平成 20 年度）から） ・特色ある学校づくり支援事業（2013 年度（平成 25 年度）から） ・学校支援地域本部事業（2015 年度（平成 27 年度）から） 　こうしたステップを経て、今年度からコミュニティ・スクールの設置に取り組んでいます。今年度３校、来年度には 11 校、３年目には全学校ということで、３年間で全ての小中学校をコミュニティ・スクール化して参ります。また、推進に当たりましては、来年度からコミュニティ・スクール推進事業という形で進めて参ります。 　それでは、資料１ページに戻りまして、改めてコミュニティ・スクールについて説明します。コミュニティ・スクールとは、法で定める学校運営協議会を設置する学校を指します。この学校運営協議会では、学校・家庭・地域の代表者が子どもに付けたい力や具体的支援について協議していただき、その協議した成果を学校・家庭・地域が役割分担して進めていくということで協働体制を整えていきます。こうした協議や協働を通じて、「地域の子にこんな子どもに育ってほしい」「子どもたちのために学校をより良くしていきたい」「元気な地域を創りたい」といった「願い」や「志」が集まる学校を目指していきたいと考えています。国の動きとしては、法改正が平成 29 年にあり、学校運営協議会の設置が努力義務化されました。本市ではこうした国の動向も見据えながら、コミュニティ・スクールを先ほど述べた目標を具現化するツールの一つとして、導入と拡充を進めたいと考えています。 　全国、他市町のコミュニティ・スクールに向けた動きですが、昨年４月１日に文部科学省が発表した数字によると、全国で 5,432 校、このうち小学校が 3,265 校、中学校は 1,492 校が導入している状況です。導入率は 14.7％です。前年度４月１日の数字が全国で 3,600 校ですので、努力義務化の波を受けて、全国的にコミュニティ・スクール化が進められています。滋賀県では 103 校園、県立学校５校をはじめ、大津、彦根、長浜、近江八幡、草津、湖南、高島、米原、竜王で導入されています。昨年度と比べますと草津市や高島市が新たに導入を進めている状況です。 　本市における今年度の取組ですが、学校運営協議会を社会総掛かりで子どもを育てるためのツールとして、導入や充実・拡充に努めて参りたいと考えています。事務局の動きとしては、新たに３校に導入ということで、４月に学校運営協議会規則に基づき、学校運営協議会委員を委嘱しました。委嘱式終了後には研修会を開催し、その模様を伊吹山テレビで放送しています。７月には、平成 31 年度以降に導入する学校に対して、希望調査を実

	施し、その結果、来年度が 11 校、再来年度で 15 校という形で進めることとなりました。秋には、県ＣＳアドバイザーを招いた導入研修会を開催しました。また、秋から冬にかけて行いました教育フォーラムでは、コミュニティ・スクールの周知も進めました。３月には次年度取組に係るプレゼン審査会を開催し、各校へ予算を配分していく予定です。 次に、今年度導入した伊吹山中学校、米原中学校、河南中学校での主な動きについて説明します。学校によってばらつきはありますが、学校運営協議会としてはおおむね年６回開催してもらっています。第１回協議会では年間計画と予算を協議いただきました。協議会開催の都度、議事録は事務局に提出してもらっています。こうした協議に基づいた連携・協働活動の実施ということで、伊吹山中学校では北國脇往還ふるさとウォーク、米原中学校ではかまどベンチづくり、河南中学校では地域でお花を咲かせてみませんか事業をメイン活動として取り組んでいただきました。また、学校運営協議会の中でリアルタイムでの学校評価をフィードバックしてもらうということも進めてもらっています。 次に、期待される効果についてです。資料３ページを御覧ください。今年度モデル校として導入した３中学校の取組です。まず、伊吹山中学校の「北國脇往還ふるさとウォーク」の取組です。校区内を通っている北國脇往還をみんなで歩こうという取組で、学校運営協議会主催事業として開催されました。当日に向けた下見や、危険箇所の確認といった事前の取組についても、学校と地域の協働で進められました。また、当日も、委員の皆さんが生徒と一緒に歩き、安全確認や生徒への励ましの声掛け、更には歩いている様子の動画撮影もしていただきました。その動画については有志の方が編集され、伊吹山テレビで放映してもらっています。大人も子ども共に汗をかいて歩くことを通して、ふれあいを深めながら、地域としての連帯意識を高めていくということで、次年度この取組を更に拡充していくと聞いています。 続きまして、米原中学校の「かまどベンチづくり」です。学校運営協議会の中で、災害時に避難場所となる中学校にかまどベンチを製作しようとなりました。資料の写真にあるような作業を、学校、地域、保護者、生徒が分担しながら進められ、この作業を通して、学校支援ボランティアの絆や、保護者、生徒、職員の交流も深まったことが一つの大きな成果であると聞いています。普段は生徒の憩いのベンチとして活用されておりますが、お米を実際に炊いて試食会も全員参加で行ったと聞いています。みんなで作ったかまどベンチが校内にあることで、防災意識、連帯意識の高まりに一役買っているものと考えています。今年度は６基作っており、次年度も拡充していくと聞いています。 最後に、河南中学校の「地域でお花を咲かせてみませんか事業」です。こちらの学校では、当初の学校運営協議会で、やはり学校というのは敷居が高いという御意見をいただいたようです。そこで地域の方に気軽に学校へ足を運んでもらう取組ができないだろうかという話合いがされました。

	ちょうど中学校では花いっぱい活動ということで、プランターを植える活動をされていましたので、この取組を地域に広げていこうということになりました。プランターに花を植える際、地域の方々にも来校いただき、一緒にプランター作りをし、できたプランターを地域に持ち帰ってもらう取組を進められました。地域に持ち帰ってもらったプランターは、自治会館や地蔵川沿いなどに置かれています。また、中学校に学校運営協議会が立ち上がったことを広く地域に知ってもらおうということで、プランターには「河南中学校運営協議会」のステッカーが貼られています。 　このように、地域住民と学校教職員が地域について学ぶ事業や地域防災の拠点づくりに取り組むことで一緒に汗を流したり、地域住民が学校に来て活動したことが地域に還元されたりすることを通して、子どもの成長や地域の活性化を目指していきたいと考えています。こうした取組を協議、協働する場として、引き続き学校運営協議会を機能させていきたいと考えます。 　導入スケジュールですが、来年度は小学校７校と中学校１校に導入する予定です。なお、河南学区については、小学校と中学校を併せて、河南学区運営協議会として設置する予定です。最終年度となる 2020 年度は残る小学校２校、中学校２校が追加となり、市内 15 校全てがコミュニティ・スクール化されることとなります。 　最後に、今後に向けてです。これまでの「特色ある学校づくり事業」は学校を中心とした企画・運営ということで、どちらかと言えば学校支援が中心となっていました。それが、コミュニティ・スクールにおいては、学校が地域と協働することとなりますので、学校と地域による協議・協働が充実することにより、地域における教育基盤がより強固となり、更には本市が抱える課題解消に資することとなると考えております。「特色ある学校づくり事業」で培った地域資源活用のあり方を、更に拡充していくため、来年度からはこの事業をコミュニティ・スクール推進事業へ移行していきます。取組内容については、従来どおり、プレゼンに基づいて委託金額を決定していく予定です。以上です。
市長	御意見について、よろしくお願いします。
教育長	コミュニティ・スクール化に向けては、校長面談などを通じて、一昨年の６月頃から話をしていて、今年度も来年度増やす８校については、昨年の６月頃から、ある程度学校と地域の結び付きがある取組をメインにしながらコミュニティ・スクール化を考えてほしいという話をしてきました。 　今年度の取組の中で、伊吹山中学校の北國脇往還ふるさとウォークについては、子どもと一緒に地域住民が歩いたり、自治会が応援で給水所を設けるなど、そうしたことがあると、地域がもっと盛り上がるのではないかという話もしていました。初年度ということで、10 月 10 日、平日の水曜日に開催されたので、なかなか地域住民まで巻き込んでとはなりませんでし

	た。子どもたちには休日の登校になるかも分からないが、できれば休日実施がよいかなと感じました。地域が一体となって事業に取り組むことで、市民の健康づくり、子どもたちと一緒に活動すること、支援すること、ふるさとへの愛着など、全てが交わってくると思います。今後の展開として要望していきたい。
教育委員	３校それぞれ生徒の人数も違う中で、おおむね年６回ということだが、ふれあいを深めたり、連帯感を高めるには、固定化された地域の方と協働する回数を重ねることも大事ではないかと思います。作業をして終わりでは浅いのではないでしょうか。その辺りを意識して計画されたのか、お尋ねしたい。
教育長	学校運営協議会委員にたくさんの回数来てもらうこともなかなか厳しい状況もあります。６回というと大体２か月に１回程度の会議でもある。米原中学校は、作ったかまどベンチで米を炊いてみんなで会食する際、自治会長にも声を掛けたが、自治会長からはこれ以上自分の仕事を増やすのはこらえてほしいという意見もあったと聞いています。自治会長とは違った方が地域の代表として学校運営協議会委員となって、自治会とつないでもらいながらやっていくのが理想なのかなと感じました。
教育委員	確かに自治会長からしたら、正直な意見だと思います。おっしゃったように、ほかの方にお願いされる方がよいかと。スポ少などはいろいろと関わってくださっている人もいるかと思います。普段から児童生徒が顔見知りであるということもメリットかなとも思いますので。
教育委員	私ごとですが、先日、友人から電話がありまして、聞いてみると、来年度ある学校からコミュニティ・スクールの委員になってくれないかという打診があったので、私にコミュニティ・スクールの話を聞かせてほしいという内容でした。話してみますと、冒頭市長が話されたように地域の様変わりについて本人も感じているようでした。ただ、本人は何かまた大変なことをしなければならない、イベントをしなければならないというふうに考えていましたので、私の中での理解になりますが、コミュニティ・スクールというのは学校を軸にして地域の再生化というか、双方向でするような取組じゃないかという話をしました。そしてそのためには、理屈や理念ばかり唱えていても何も動かないので、仕掛けが必要だろうと。そうした点では、伊吹山中学校や米原中学校もその仕掛けの一つを具体化されていると思います。確かにイベントか何かをしなければならないかもしれないが、その裏にはそうした狙いがあるのではないかと私は理解していると友人には話しました。そして、確かに大変かもしれないが、ほかの委員や学校の先生など関係者と協議会を作ること自体が、一つのコミュニティになっていると、その辺りから考えたらどうかと。友人みたいに、学校が一方

	的にお世話される取組のように理解をされている方が多いと思うが、双方向でやる取組だと思います。子どもの数も少なくなって、昔のようにとはならないと思うが、接着剤のような感じで、少し気楽に考えていったらよいのかなと。どこまでできるかは、やってみなければ分からないので。
教育長	以前、岐阜に視察に行った際、学校の一角に学校運営協議会専用の部屋、地域の部屋が設けられていました。本市でも空き教室はあるので、できれば学校運営協議会が立ち上がったところは、専用の部屋を設けて、自由に委員の方が来て、あるいは学校支援地域本部で活動いただいている方もそこへ来て、自分の作業もしながら子どもの見守りもしますといった感じの開かれた学校にしていきたいと思います。活動の範囲も広がると思う。 先ほど言われた「双方向」というのは非常に大事なこと。元気な高齢者はこれまで社会で培ってきた知識や経験を生かし、地域に、あるいは地域の学校に目を向け、やれることを協力しますよと。そして、子どもたちはまたそれを返していくよと。そうした部分は非常に大事だと思います。
市長	学校運営協議会のメンバーについての質問ですが、地域の代表者は自治会長となっているのですか。そうではないですよね。
事務局	校区ごとの実情があるので、校長先生の意向を尊重してお願いしています。ただ、学校評議員という仕組みが今までからありますので、そちらのメンバーを移行するのが一つの流れとなっています。学校によって人選は様々ですが、その中には自治会長もいたりします。もう一つは、家庭との連携もあるのでＰＴＡからも出てきてもらえないかと。更には、学校支援地域本部という地域住民によるコーディネーターを配置して取り組んでいる事業がありますので、そことの連携も含めコーディネーター代表にも入ってもらっています。そうしたことから、地域の方としては大体７人から８人くらい。そこに学校の先生も加わって、協議会を運営してもらっています。
市長	先ほど言いましたように、世の中は変わってきています。私たちも学校との関わりについて一定経験してきたが、どうしても自分が経験してきたものをやってほしいとか、こうあるべきだと思い込んでしまうところがあると思います。でも、今の子育て世代の皆さんの考えとして、群れて何かをやるとか、先輩のやってきたことを追随するといったことを声高に言うと、それは違うと、どんどん引かれてしまっているのが現実のように見えます。そういう点では、難しいかもしれないが、任せてしまうということを考えてもよいのではないか。特にこのコミュニティ・スクールという取組に関して言えば、大人の責任、地域としての責任、あるいは親としての責任、そうしたことを感じている人が必ずいると思います。何かしたい、何かしなければいけないと思っている人がいると思う。そこがミスマッチ

	となってしまうと、何をしたらよいのかということで、目覚めてもらうための時間が掛かってしまう。もちろん、校長先生の意向もあるかと思いますが、場合によっては手挙げ方式のような形でもよいのではないか。学校はこんなことを始めようとしていますよと、ここを手伝ってくださいと、地域にオープンにして。例えばかまどベンチをやりますと言ったら、それなら行こうかという人がいるかもしれない。ウォーキングをやるなら、早目にその情報を出して、これに参加してくださいとか、こういうアイデアで関わってくださいと。今の時代、情報を出すことで動き出すことがある。それに反応する人は現実にいる。学校の先生や校長先生の考え方がどうとか批判しているつもりは全くありませんが、私自身も陥っている現状から言うと、既成の感覚で物事を判断しようとしていると、上手くいっていないという現実でありますから、コミュニティ・スクールの推進ということでは、情報を開示して、広くみんなに知ってもらう中で、やる気のある人、やりたい人を上手くつないでいくことが大事な活動のやり方ではないかなと思います。やり方や考え方には変化があるということで進めてほしいと思いますので、よろしくお願いします。 いずれにしてもこの３校がそれぞれの動き方をされたということは大きな進歩だと思うし、これを一歩としてぜひ全市に広げていただきたいと思います。 **（２）小学校３年生学力補充教室「学びっ子」について**
事務局	小学校３年生の放課後補充教室学びっ子事業についてです。今年度から始めた事業で、来年度も指導員を増やして拡充していきたいと考えています。３年生全員を対象に補充学習をするということは今まであまりなかったので、県内の市町から問合せもありましたし、文部科学省からの問合せもありました。特色ある米原市の取組として進めていきたいと考えている事業です。 それでは資料２を御覧ください。学びっ子事業について、今年度の総括を中心に話をさせてもらいます。年度当初は、事業自体がスタートした段階ということで、保護者も、学校も、あるいは指導員の方も、どういう形で進めていくかというところからスタートした状況でしたが、後半になって「学びっ子」のスタイルが確立してきました。 小学校３年生になると、小学校１、２年で学んできた学習内容の応用になって、抽象的、論理的な思考が必要となる学習が増えてきます。学力の二極化、学習できる子とできない子の差が表れてくるのが小学校３年生です。そして、それが中学校まで引き継がれていくような状況があります。そこで、小学校３年生の段階で学習への定着を図るための家庭学習、自主学習の力を付けるための補充教室を行っています。市内全小学校を対象としてこのような補充学習を実施しているのは、県下でも米原市だけです。 今年度の総括ですが、年度当初にこちらが想定していた人数よりも多く参加してくれ、参加者数が３年生 379 人中 252 人、参加率が 67%でした。

	参加率が 80%近くの学校もあります。また、この学びっ子事業に関しては、塾へ通うことや家庭学習が進めにくい子どもたちへの補助という部分もありますので、そうした子どもたちの参加を見ますと、参加率は 61%と、全体の参加率 67%からすると少し下がっています。家庭状況、あるいは学力の問題といった部分で見てみると、この部分の参加率がもう少し上がってこないかなというのが現状です。各学校の教室人数は 14 人から 32 人となっています。大原小学校、坂田小学校については複数開設している状況です。ただ、当初はそこまで多くの児童が参加するとは想定していなかったので、年度途中からの対応となりました。来年度はその辺りも改善できればと思っています。 次に、開設実績についてです。年度当初、週１回で各月４回程度、30 週実施を予定していました。12 月現在、各校で 16 回実施しており、３月終了時では 25 回程度を予定しています。指導員に関しては 19 人確保してきました。ただこれも、年度途中で変更したり、増やしたりする状況でした。この中で複数校勤務者は６人です。 次に、学習内容についてです。全国学力状況調査を基にどこに苦手意識があるかを踏まえ、付けたい力を身に付けるためのプリントである、県教育センターが作成していますガッテンプリントを使用しています。資料３ページに例を載せています。それともう一つ、市教育センターで実施している米原市学力状況調査の中で、条件をつけて作文を書くという部分で課題が見られることから、小学校３年生から身に付けてほしい作文の力をこちらで検討し、３学期からですが、学びっ子作文として教育センター事業も連携した形で作文指導も行っています。 資料２ページを御覧ください。総括として、各学校、児童にアンケートを実施しました。子どもたちは学びたいという思いがすごく強く、分からなかったことが分かったり、できたりするとすごく喜びます。小学校３年生というのはそういう時期ですので、本当に学習に意欲的で、楽しくやっている子がたくさんいたと感じています。楽しみにしている児童も多く、学びっ子を毎日してほしいといった声も聞いております。また、学校の先生ではない先生に教えてもらうということで、また違ったアドバイスをもらえたり、相談できてよかったとアンケートで答えている子もいました。 課題としましては、子どもたちの授業、あるいは学習の力にも差異が見られて、子どもたちに合わせたプリント内容が必要であり、来年度はもう少しプリント内容を検討していく必要があると感じています。また、できる子、できない子の差、特にできない子への丁寧な個別指導が必要だと考えており、現在各教室に２人ずつ先生を配置していますが、もう少し指導の工夫をしていかなければならないとも思っています。あと、できるだけたくさんの先生の目で見てもらった方が子どもたちも個別に見てもらえるという要望もありました。また、学習した内容をもっと保護者に伝えた方がよかったのではないかという学校からの御意見もいただいています。更に、学習していく中で具合が悪くなったり、学校の中の生活指導という部

	分も出てきまして、そうした問題への対処も課題としてありました。 　児童のアンケートを見ていただきますと、学校の授業以外の勉強時間が増えたと答えてくれる生徒が多かったです。１時間、２時間以上勉強している子どもの数はあまり変わりませんでしたが、30 分から１時間勉強する子どもは倍に増えたという結果が出ています。これは、今まであまり勉強していない子の勉強時間が増えたとことによるもの考えています。それ以外では、以前分からなかったことが分かるようになった、授業の復習をよくするようになった、２年で習った不安なところが分かるようになったなどのことを、参加してよかったこととして書いてくれています。また、４年生になったらこんなことを頑張りたいということについて、子どもたちは意欲的に書いていてくれていて、分からなくても最後までやりきる、自主学習ノートを頑張ってみたい、毎日１時間は勉強したいなど、意欲的な気持ちで次の学年に臨んでくれるということで、一定の成果があったと思っています。 　来年度は、米原市学力状況調査を小学校４年生で実施する予定をしており、学びっ子事業を経験した子どもたちが果たしてどういう成果を出すのか、またそこから課題も見つけながら、学びっ子事業につなげていけたらと考えています。 　資料１ページに戻っていただきまして、次年度に向けてです。まずは、学校・保護者・児童への年度当初の周知をしっかり行うとともに、本人への働き掛けも工夫して参りたいと考えています。また、今年度当初にありました保護者の下校の対応、あるいは、放課後児童クラブとの連携強化も必要ということで、来年度に向けて検討を進めています。もう一つ、指導者の確保ということで、今、人材を確保するのが難しい状況の中で、この部分については次年度早目に対応していきたいと思いますが、課題になってくるのかなと考えています。あと、学習プリントのことを先程申しましたが、連携しながらやっていくことと、来年度ですが、柏原小学校ではタブレットを活用した自主学習、家庭学習といった先進的な取組もしていただく予定であり、これも学びっ子事業と連携できたらと考えています。就学支援児童の参加人数を増やしていく点では、社会福祉課との連携を進めてまいりたいと考えています。以上です。
教育委員	６月から、６回目くらいからですが、学びっ子事業のお手伝いをさせてもらっています。非常によい取組であると思います。最初は、１時間集中できない生徒がいたりして、１時間の中で早く終わる子もあれば、一生懸命頑張ってもできなくて、担当者が個別に教えたりしていました。また、その時間の中でちょっとしたいざこざがあったりなど、その辺りの子どもたちの意識をどういうふうに持っていくかっていうところが最初はちょっと大変だったなと思います。特に問題内容が１学期は２年生の復習あたりになりますので、質問する子が非常に多く、それに対応するのが非常に大変でした。１年間を通してみますと、学校でも１学期は新しく進級して皆

	さん気も張っていて、２学期はちょっとたるんできたりするようなことがあるかと思いますが、やはり学びっ子についてもそうした感じがあると思います。２学期の後半、学級の中でちょっと気になる生徒さんがいて、担任の先生からも指導を入れていただきました。結局、おうちの方と相談をして、３学期は辞めますという子どもさんもいました。３学期は、子どもたちにとっても次年度進級に当たるまとめの時期ということもあって、非常に一生懸命真面目に取り組めていると思います。学習内容も工夫いただきました。国語ですと、１、２学期は、指定された漢字で 20 字くらいの短文を書くところから訓練して、３学期には、自分の思い、好きなものは何ですかというところから、そしてそれがなぜならという理由を付けて書く作文の練習が始まりました。最初、好きなものは言えますが、その理由がなかなか上手く表現できない。どこがいいのか尋ねたり、いろいろ工夫やアドバイスをしながらですが、少しずつ上手く表現できるようになってきて、80 字から 100 字の中で上手くまとめる力がすごく付いてきているように感じます。自分の思いを表現できるという点で、すごく良い勉強ができているように思います。 　先ほどいろいろ課題がありましたが、子どもたちが一生懸命頑張るかどうかという最初の意識付けをしっかりとすることと、周りに迷惑を掛けないということが大切かなと思います。それから、放課後児童クラブと学校と学びっ子の連携も課題だと思います。欠席の連絡が学校に入り、学校から学びっ子には連絡されるが、放課後児童クラブにはその連絡がされていないといったことがあり、その辺りがきちっとできていない。放課後児童クラブには保護者から連絡するということで、学校は関与されないということかもしれませんが。また、辞める際の連絡もきちっとしていただきたい。プリント内容については、いろいろと工夫もしてもらっているし、今年の状況も踏まえ、来年度また変わっていくと思います。 　子どもたちも授業が終わってから大変ですが、一生懸命、その１時間で何とか自分でプリントを仕上げる、自分でできる宿題や読書をするというふうに自分でやるという力がすごく付いてきていると思います。３学期になって非常に１年間の成長が見られてきたなというところです。この１年間やってきたことがすぐに来年度に成果として出るかは分かりませんが、やってきた努力という点では子どもたちによく付いてきたなというところです。
教育委員	この事業が始まる際、小学校３年生の子どもを持つお母さんと話す機会があり、学校から案内のプリントをもらってきて、自由参加と書いてあるけどどうしたらいいかと尋ねられました。お母さんはどう思っているのか聞いてみますと、下校の心配はないし、迎えにいく必要もないし、親としては勉強する機会なので行ってほしいとは思うけど、子どもはどう言うか分からないし、周りもどうされるか分からないと。結論を先に申し上げると、そのお子さんはずっと参加されています。

	その子どもとも会う機会があって、子どもに「学びっ子、行ってるんか」と言うと、「行ってるで」と。「何してるんか」と聞いたら、「プリントをする」と。「プリントができたら、遊んでるんか」と聞いたら、「いや、宿題をしてもよいことになっているから、宿題をするんや」と。「宿題やプリントが分からんかったらどうするんや」と聞いたら、「先生がいてくれるから教えてもらえる」と。そして、「楽しいか」と聞いたら、「勉強しないといけないので楽しくはない」と。「でも、嫌ではない」と。 話は戻りますが、お母さんには、あまり無理してやらすのではなくて、子どもに話をして行きたいということだったら、行かしてあげたらどうですかという話をしていました。途中で辞めることもできるし、あまり親が行けと命令的に言うとまた子どもが反発するといけないのでと。その点、上手にされたと思います。しばらくして、お母さんに聞いてみたら、宿題をしてくることが多くなったので、家でちょっと伸び伸びしてます、すごくいつもと違うとおっしゃっていました。いつもなら帰ってきてゲームと宿題との競争みたいになるらしいのですが、学びっ子の日は大目にみて、ゲームをしてもよいと言っていると。こちらも何か気が楽ですということでした。ただ一点、課題にも出てましたが、何をしているのか私たち保護者は子どもから聞く程度でよく分かりませんということもおっしゃっていたので、保護者への連絡や、働き掛けの工夫については多少いるのかなと思います。 その親子だけの話ですので、全体がどうかということはちょっと別にして、おおむね子どもさんにとってはやりがいのある、よい事業だなという感想です。来年度、市の学力状況調査を４年生にシフトするということで、そういう面での評価を見るということで的を射ている事業かなと考えています。ただ、先程ほかの委員から話があったように、ピンポイントで抽出した子どもに対してやるものではなくて、非常にできる子も来てるでしょうし、俗に言う、ちょっとやんちゃをするような子も来ていると思いますので、そういう意味では、私個人としてはあまり狙いをピンポイントに絞り過ぎないように、ちょっとゆったりと構えて、長期的に成果を見ていくような視点でこちらが見ていかないとちょっと息苦しくなっていきそうな気がします。 今年度は試行的なところがありましたが、私が聞いた子どもさんの感想のように、「楽しくはないけど、嫌ではないよ」と思われる取組がぜひ続いてほしいと思います。親からの感想を聞くことがありましたので、ちょっと角度を変えてお話させてもらいました。
教育委員	学びっ子の中では、なかなか問題が解けずに泣けてきた子どもさんもいました。ほかの子の対応をしていてなかなか行けなかった。でも、質問者がだんだんと減り、その子に関われる時間ができるようになってきて、３学期はすごくうれしそうに取り組んでいます。〇をもらえて喜んで頑張っているその子どもさんの様子を見ていると非常にうれしく感じます。そう

	いう子どもさんもいらっしゃる。
教育委員	私も近所の小学校３年生の子ども何人かに聞いてみたのですが、「みんな頑張っている」「行ってよかった」ということでした。することによって、学習に向かう姿勢や競争心なども身に付くだろうと思います。自分自身が楽しく、やる気を出して学習ができるようになっていければ、一人一人がちょっとずつでも学ぶ喜びを感じていけたら、次のステップへ上がっていけると思います。 保護者のアンケートがありませんでしたが、保護者がどのように思われているのかということについて、どこかで聞かれたりしていたら教えていただきたい。また、学びっ子の成果について、担任の先生はどう思われているのか分かりますか。
事務局	学校アンケートは担任の先生を中心に書いてもらっているので、子どもたちの様子も含めて書いていただいています。一定分けて考えてはおりますが、やはり担任の先生も子どもたちの様子が心配なのでたくさん見に来ていただいていて、連携もしてもらっており、確かに担任の先生に御負担を掛けたようには思います。この点については来年度どうしていくかということもありますが、ただ、先生方も子どもたちの一生懸命やっている姿を見て喜ばれているところもあります。また、学びっ子で相談したり、悩みを言ったりすることもあり、そこからまた学校につなぐことができたケースもあります。この辺りは試行錯誤の部分でもあります。 保護者のアンケートにつきましては申し訳ありませんが、取れていませんので、改めてアンケートをとって、来年度に生かしていきたいと思います。
教育長	それはぜひやってほしい。
教育委員	授業の復習ができることがよいと思います。やはり、その日学校で勉強して分からなかったら、分からないまま家に帰ってきて宿題をすることになる。結局、宿題が分からなくて子どもが聞いてきても、ご飯の用意をしていたりして、親はすぐに答えてあげられないことがあります。すぐに答えられないと、子どもの学習に対するテンションも下がってしまうことが多々あるので、ここで復習をしてもらえると子どもの中で自信が付くと思います。帰ってきてから宿題をするにしても、ここは習って分かってるとなると、授業を受ける時にも自信を持って前向きに取り組めるのかなと思います。復習に重点を置いてやっていただいたら、子どもたちが学校に行く意欲にもつながると思いますので。 今は３年生だけなんで、４年生や５年生もやっていってほしいと思うのが保護者の意見ですが、なかなかそれも難しいと思うので、継続的にやっていっていただけることを願っています。

教育長	そもそもこの事業を始めたきっかけとして、中学校１年生の実態を見ていく中で、九九を言えない子どもがいることが、私の頭の中にずっとありました。低学年のうちに復習することがしっかり定着して、それが、できた喜びや、もっと勉強したいなという思い、そして子どもたちの自尊感情につながっていくということがベースにあります。 少し気になるのが、就学支援が必要な子どもたちの参加率が 61%となっているところ。塾へは通えないけど、市がやっていることには参加するといったように、貧困対策の一つの取組という面もあると思うので。この辺りは上手に働き掛けをして支援していく必要があると思っています。 また、御意見をいただいたように、５年生でもやれないかという期待の意見もいただいていますが、なかなか指導者の確保が難しいかなと思っています。
事務局	指導者の確保も課題ですし、下校をどうするかという問題もあります。
市長	学力補充教室ということで、復習をしてステップを上がっていくということが大事なんですが、教育格差が言われる中、特に小学校３年生という教育内容が変わっていく非常に大事な節目の時に、なかなか塾に通えないとか、家庭に帰っても親がそばにいないなどの実態も含め、やはりその部分にはぜひ焦点を当てて、支援を必要とする児童、家庭に声を掛けてもらいたいと思います。子どもの学力や家庭の経済的実態について、学校なり、担任の先生は御存知だと思いますので、そこは丁寧にお願いしたい。来ていない子がいたとしたら、その事情が把握できているのか、気になるところです。事業を実施するだけでも大変だということはよく分かるのですが、その大事な部分は取りこぼさないでいただきたい。 もう一点。この学びっ子事業と教育センターとの関わりについてです。学びっ子もそうですが、１年生、２年生段階での学校での対応も含め、教育センターとしては、しっかりと関係者と連携を図りながら、どこが分かっていないか、なぜここでつまづいているのかに敏感に反応し、対応策を打ち出していってほしいと思います。そして、そうしたことについて、毎回でなくて結構なので、保護者に一つ、二つとよい事例として伝えられると、関心や関わりも増えていくのではないかと思います。以上のようなことが気になりましたので、よろしくお願いしたいと思います。
教育長	教育センターが作文の例も出しながらやっていてくれるのは、よく分ってありがたいと思う。指導者とセンターとの連携はどうなっているのかもう少し説明してください。
事務局	私たちも指導員として入る場合もあり、一緒に対応していることもあります。しかし、ずっと一緒にしているわけではないので、更に連携強化を

	図ることはできると思います。
教育長	市長が言われるように、３年生の子どもたちの実態からここに大きなつまづきが層として多かったなど、現場の意見をもらいながら、それを学校の指導にまた生かしてもらえるようにしていくのも教育センターとしての機能の一つだと思う。指導者が子どもたちの実態から感じたこと、あるいはつまづいているところはこの辺りでしたということ拾い上げて、それを学校の指導につなげていけるようにしていってもらいたいと思います。
市長	少し話がそれるかも分かりませんが、皆さんも東大受験の東ロボの話を聞かれたことがあると思います。東京大学に偏差値でロボットがいけるかということをやった新井紀子さんという数学者がいます。彼女は米原市にも関わっていてくださっていまして、先日も教育長と一緒にお会いしてお話をする機会がありました。その新井先生がおっしゃるには、間違いなく教科書が読みきれない子どもが増えているということでした。それは単に国語力や読解力といった問題だけではなく、脳の構造や、子どもの成長、育ちの段階で私たちが経験しなかったものが周りに多くあるという状況の変化も含めて、教育の在り方、知識や物事を理解していくやり方が非常に心配だというお考えでした。彼女の本も読んでみたんですが、ロボットはＡＩで人間以上に早く判断するし、すごい知識も持っている。ところが、情緒というか、人間だからこそ判断すべきものは絶対ＡＩにはできないんだと。そこが乗り越えられないと絶対に東大に受かるような人たちの能力に追いつけないんだと。やはり、読解力とか、気持ちが分かるとか、自分の気持ちを伝えたいという思いが沸いてくるとか、ちょっと上手く私には説明できない部分もありますが、そうしたものが必要だということです。 時代が刻々と変わっていく中で、教育の在り方も変えていかなくてはいけないのではないかという点では、私が言う以上に学校現場において研究もしてもらっているし、アンテナを高くしてもらっていると思いますが、情報など、確かに子どもたちを取り囲む状況は、私たちに考えられないものとなっています。そのことをとやかく言うよりも、そうした時代になっていることを認識しながら、学び、学力ということを考えていく必要があると思います。
	（３）チームまいばら先生（ＴＭＴ）の会について
事務局	市教育センターでは、計画的に教職員の資質・能力の向上を目指す研修を進めてきているわけですが、働き方改革の中で、研修についても精選してきており、予算の関係も含めまして、悉皆研修や階層研修はやっていますが、研修を少し減らしています。また、入れ替わりで若手が入ってくる中で、ゼロ予算で横のつながりを大事にした自主研修ができないかということで、チームまいばら先生の会の取組をこの３学期から始めていまして、来年度は教育センターの大きな事業として進めていきたいと考えていま

	す。 資料３を御覧ください。米原市教育センターの主な事業として、教職員の研修事業があります。今まで行っていた研修について学校園の負担になる部分があり、精選を進めてきました。その中で課題として見えてきたのが、若手の初任者、あるいは５年目ぐらいまでの先生の研修です。県の研修は県総合教育センターで実施していて、また市でもやっています。過去には、米原市でも若手研修をやっており、園の方では今も５年目ぐらいまでの先生を集めて、これは悉皆に近い形で研修をやっていますが、学校の方は行えていない状況でした。初任者研修から５年目、そしてステージ研修で途中のミドルリーダー研修などは実施していますが、若手の初任者研が終わった後の先生のつなぎの研修がありませんので、その辺りを何とかできないかというのが狙いです。 資料２ページを御覧ください。人材の入れ替わりの中で、やはり今、初任者の先生がものすごく増えています。そうした中、その先生方のフォローを忙しい学校現場で行うことがなかなか難しい状況であり、また働き方改革で、これまでなら話し合って、先生方同士でいろいろなことを切磋琢磨しながらやれたことが、無駄を省くことで、そういうことも困難となっています。さらに、米原市内の特徴として、小規模校が多く、本来なら先生同士で話ができることが、単級でしたり、先生の数が少ない中で、同年代の先生も少ないということで、相談や協力が難しい状況があり、これはどうしたらよいかと悩んでいる先生が多いのも実情です。 そうした現状を基に、教職員が思っている純粋に学びたい、こんなことをやりたい、こんなことを今悩んでいるということを相談できる場を提供したいという狙いでスタートしています。強制ではなく、自由参加です。若手から校内でリーダーとなる先生にも参加していただいて、一緒に話し合ったり、いろんなことを持ち寄って相談する中で、学校の先生にもアクティブラーニングをやっていってもらえないかということです。情報交換の場とか、ネットワークづくりを意識した取組を進めていきたいと考えています。 研修と言いますと、今までは市庁舎や研修室に集合してもらっていましたが、このチームまいばら先生の会は学校へ行って、校内研修の中でやっていくような形であり、なるべく負担がないように、出張などもないようにしていきたいと考えています。 資料３ページにはその案内を載せています。堅苦しい案内ではなく、誰でも参加しやすいようにチラシ的に作って周知しています。また、申込方法も簡素化に努めています。現地で研修をするということで、これは河南小学校ですが、そこで専門的な力を持っている先生や、あるいはそういう専門家を呼んで研修するということとともに、先生方に話し合ってもらう場を設定しています。 ３学期から行っているわけですが、資料４ページはその実施状況です。教育センターの事業でもあるので、今、調査研究を行っている小学校英語

	について、ＥＣＣの方に来てもらって講義をいただくようなこともしました。また、市で導入している電子黒板が有効に活用されるよう電子黒板マニュアルの実技講習会も行っています。このほか、各学校でこんな授業をやっている、あるいはこんな研究をしているという実践報告会なども先生方に周知して、勉強できる機会を作っています。３月初めには、初任者研を中心とした若手の先生に１年間の振り返りの場としての研修会を予定しています。 　こうした形で先生方の学びの場を提供する中で、先生が学んだことをまた子どもたちに返し、そして先生方が自分たちで学んでいる姿を子どもたちが見ることで、勉強したいと思えたり、つながってやることが大事だということを感じながら勉強してもらうなど、子どもたちの学力向上にもつなげていきたいと思います。
教育委員	先生方の反響はどうですか。
事務局	やはりなかなか忙しいので、その時間に来るということに、まずハードルがあります。ただ、来ていただくと、先生方が悩まれていることを勉強できるので有意義だという意見をいただいたり、またこういう機会があったら来たいということを言ってくださっているので、少しずつですが広がっていくと思います。 　なるべく放課後の時間で設定して、１時間程度で行うのですが、移動時間の問題であったり、放課後もやらなければいけないことが多くある中、この会に参加することによって仕事にしわ寄せがいくということもあるので、その辺りを上手く調整しながらやっていければと考えています。 　周知については、まだあまりできていないのが現状です。
市長	こういう悩みというか、学びたいという欲求は今までもあったと思いますが、これまではどうされていたのですか。
事務局	３学期にアンケートをとって、それを基に夏の講座などをやっていましたが、その時のニーズにすぐに対応するような研修の実施という面では弱かったと思います。すぐに対応できるような研修ができないかということも今回の取組につながっています。
教育委員	自由度が高いということは大事だと思うし、絶対に忘れてはいけないことだと思います。元々の骨子として、先生方の意欲に裏付けられた研修ですので、人数の増減もあれば、内容も変わっていくと思います。ひょっとしたら立ち消えになるかもしれないというくらいの覚悟でやった方がよいのではないかと思います。 　ゼロ予算ということはポイントだと思います。ゼロ予算が妥当かという議論はあると思いますが、予算が付いたりすると、どうしても何か指示を

	したり、形をこちらから提示したりいうことで自由度が無くなると思います。意欲ある者の集まりみたいなものがあってもよいのではないか。そういう点では今までになかったタイプです。ただ、参加しやすい職場環境づくりといったフォローは事務局がしないといけないと思います。 理想的なのは、センターがしなくても先生たちが自分たちでグループを作って集まってやっているような状態。そういうグループはたくさんあります。そこまで発展すればいいのでしょうが、すぐにそこまでは難しいかなと。だから教育センター事業とすることは構わないと思います。誰かが段取りをしないといけませんので。ただ、自由度だけは無くさないでほしい。先生方の意欲に裏づけられた研修であることを願います。
教育長	各学校の教職員の年齢層が、20 代が１人、２人、30 代、40 代がいなくて、50 代が 10 人程度いるとか、非常に偏っている。若い先生が気楽に隣の学校の先生と話す機会がほしいというニーズがある。そのニーズに上手く応えながら、最初はセンターで構成するけど、今言われるように、自分たちで考えてみたらと、場所は提供するのでというところまでいくと良いのかなということを思う。そこは今後の定着を見ながら、考えていければと思います。
教育委員	先ほど先生方の反響について聞いたが、やはり、相談し合える環境づくりとしては、集まる機会が多ければ多いほどよいと思います。相手のことも分かるし、こんなことで悩んでいると話しやすくなる。いろいろとテーマを決めて集まる中でも、そういうところが話せる場であってほしいと思いました。これを上手く使ってもらいながら、今度集まりたいと言って気軽に集まれるようになるといいなと思います。 もう一つ、学校によって子どもたちも違うし、先生方の年齢層も違うのですが、やはり、職場の中で先輩が教えるとか、相談しやすい雰囲気作りも大事だと思います。
教育長	当然、学校の中でＯＪＴという形で、中堅の先生が若手を指導して、成長させていくことは重要視しています。ただ、各校それぞれ、多少なりとも文化がある。その辺りについて情報交換するだけでも、若手にとっては勉強にもなると思います。若手だから話しやすいということもあるので。
教育委員	お話を聞かせていただいて、教科や教え方の研修がメインかなと感じたのですが、先生方からしたら保護者の対応など、もっとほかのことを研修したいと思われているのではないかという気もしました。 それと、先生の働き方改革。夜の９時、10 時しか帰れないということを身近で聞きいています。その解決策の一つがＩＣＴだと思います。生徒のためのＩＣＴもあるし、先生のためのＩＣＴもある。先を見据えた研修内容も取り入れていった方がいいんじゃないか、逆に取り入れていかなけれ

	ばいけないと思います。学校参観などをさせていただきまして、タブレットや電子黒板を使っているところを拝見しましたが、まだ本来の使い方ではなく、ＩＣＴ教育の入口であると感じました。そういう意味で、ＩＣＴを早く本格的に推進していくべき。予算の関係もあると思いますので、規模の小さい学校からでも結構ですから。併せて、ＩＣＴ機器を使いこなす先生方もしっかりと養成していく必要があります。市長にも御理解いただいて、ＩＣＴ教育を強力に推進していただけるとよいかなと思います。
教育長	ＩＣＴこそ、若い先生が率先して早く対応してくれている実態があるので、そうした中で他校との交流は大事かなと思います。ＩＣＴについては、やはりポイントに置きながら取り組んでいきたいと思います。 あと、確かに教科指導は結構やっていますが、若い先生では学級経営で悩む先生も結構います。その辺りもニーズとして学び合える場が必要かと思いますので、聞き取りしながら進めていければと思います。
	（４）今後の総合教育会議の協議事項について
教育長	先程も話題が出た学校の先生の働き方改革について、今後どうしていくのかということを話し合えたらと思う。来年度、こども未来部では保育業務支援システムを導入するが、学校現場への導入についても考えていくべき時代に来ていると思っています。 また、おそらくこの３月、先生方の残業時間について上限 45 時間とすることを国が示してきます。それに伴い、来年度は規則の整備などをしていかなければならないと思うのですが、一方で現実問題としてできるのかということを懸念している。その辺りも議論する必要があると考えています。
教育委員	やらなければいけないことがあるから時間が掛かっているわけですから、それを少しでも早く処理できるよう、今の時代、コンピュータでできることもあるので、そうしたものを活用して作業時間を短縮するなどしない限りは、規則をつくっても、現状のまま、ただ単純に残業時間を削減しろと言ってもできないと思います。みんな一生懸命やらなければならないことをやっている。民間企業も同じで、何か置き換えていかない限り時短は難しい。残業代を払わないといけないこともあり、そうしたことをやらざるを得ないようになってきている。
教育長	何も対策がないまま、数字だけが出てきている現状があります。
教育委員	やれと言っているだけでは進まない。どうやって取り組んでいくのかを踏み込んで考える必要があります。
市長	それこそ自由な議論をして、米原教育、米原の学校スタイルのようなものを作り出したらよいと思いますので、その辺りも今後議論していければ

	と思います。来年度は、こうした議論の場を最低２回程度は設けるようにしたいと思います。 　もう一点、先程の学力補充教室にも関係してきますが、今日、本当に家庭の実態が変わってきている中で、私が感じている教育に関する問題として貧困の問題があります。すぐにはピンとこないかもしれませんが、日本の子どもの７人に１人が貧困状態にあると言われています。いわゆる相対的貧困ということで、家族で旅行に行ったことがないなど、本来みんなが経験しているようなことが経験できない子どもがいるという現実があります。貧困の表れ方も変わってきている中で、いじめ問題や虐待問題もその背後にあるように私は感じます。どこまでできるかという部分もありますが、来年度、この貧困問題について米原市としてしっかりと向き合って取り組んでまいりたいと考えていますので、その辺りもこの総合教育会議で議論できればと思います。 　私たちはお互いに近い関係にいます。ダイレクトで結構ですので、今後とも御意見等賜れればと思います。本日はありがとうございました。 ４　閉会